

ひらつかタウンミーティング

開催結果報告書

※この報告書は事務局で要約しました。

- 1 開催日時 令和7年（2025年）11月20日（木）
午後6時から7時30分まで
- 2 開催場所 ホテルサンライフガーデン
- 3 参加者 高校生4人、専門学校生1人、大学生1人
社会人ファシリテーター1人
- 4 プログラム 第1部 学生提言発表（七夕まつり）
第2部 パネルディスカッション



5 主な内容

ひらつかタウンミーティング2025の趣旨説明（平塚青年会議所）

「ひらつかタウンミーティング2025」に御参加いただきありがとうございます。
ます。

本日は、2部構成です。

第1部は、七夕学生委員会という学生組織の中で、「湘南ひらつか七夕まつり」を盛り上げるために実施してきた御報告と、まつりの中で感じた課題や更に良いまつりとするために考えた提言を発表する場となっております。学生ならではの目線や考え方に触れる機会となれば幸いです。

「湘南ひらつか七夕まつり」は、平塚市民が主体となって盛り上げるまつりです。学生たち自身も七夕まつりを、そしてまちを盛り上げる主体として考えていることをこの場で発表させていただき、発展の一助となればと考えております。

第2部は、質疑応答形式のパネルディスカッションです。

それぞれの立場で七夕まつりや七夕学生委員会に感じていることを語っていただき、様々な目線での捉え方・考え方を知っていただければと考えております。

「湘南ひらつか七夕まつり」、平塚市の発展に向けて考えていくきっかけとなれば幸いです。よろしくようお願い申し上げます。

市長あいさつ

こんばんは。平塚市長の落合です。

本日は、平塚青年会議所、七夕学生委員会の皆様のおかげで「ひらつかタウンミーティング2025」が開催されますことに心よりお礼を申し上げます。

今回で9回目の開催となり、学生ならではの発想や率直な意見を伺える貴重な場となっております。

本日の提言発表に当たり、忙しい勉強の合間を縫って、準備を進めていただいた皆様には、深く感謝いたします。

今回のテーマは「湘南ひらつか七夕まつり」です。七夕まつりは、平塚の顔です。戦後の復興を願って始まり、今年で73回目を迎えました。コロナ禍で2回中止となりましたが、長年にわたり、時代に合わせて形を変えながら、大切に継承されてきました。

これからも持続可能で魅力あるものにしていくためには、若い皆様の発想が欠かせません。七夕学生委員会で得られた経験をもとに、感じた課題や良いまつりにするための提言を伺えるということで、楽しみにしています。

今回が皆様の将来や地域社会に目を向ける良いきっかけとなり、学びや人生の幅が広がっていくことを願って、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

提言発表

■学生から提言発表

本日は、七夕学生委員会として活動してきた中で感じたことや気づきをもとに、見えてきた課題とその提言について発表します。

七夕学生委員会の活動の中心は高校生ですが、七夕学生委員会を卒業した大学生・社会人・専門学校生など、様々なメンバーが参加しています。「湘南ひらつか七夕まつり」の魅力をより多くの人たちに届けたい、より良くしたいという思いでつながっています。

■七夕学生委員会活動内容

今年の七夕学生委員会では、

- ・ 市民飾りの制作・掲示
- ・ 当日の短冊販売
- ・ キッチンカーへのアレルギー表示の依頼

など、様々な活動を行ってきました。

また、活動後の話し合いや打ち上げも大切な時間として取り組んでいます。反省会では気づきを共有し、次に生かすための意見交換を行いました。

こうした活動の中で私たちが強く感じたのは、七夕まつりの魅力をもっと多くの人に届けたいという思いです。七夕学生委員会として活動する中で、魅力を改めて感じるとともに、学生や地域の方々の間で、関心に大きな差があることに気づきました。

■課題

その理由を探る中で、私たちは次の2つの課題にたどり着きました。

1つ目は「来場者が安心して楽しめる環境がまだ十分ではない」こと。

2つ目は「学生や観光客に七夕まつりの魅力が十分に伝わっていない」こと。

今年度、七夕学生委員会として活動し、振り返りや反省会を行った中で、私たちは、以下の提言をまとめました。

■提言

1つ目、金曜日の来場者数を増やすために学校教育と連携すること。

2つ目、市民が主体となって市民飾りの制作に参加できる「デコレーションプログラム」を導入すること。

3つ目、食物アレルギーや言語の壁をなくすために、屋台でのアレルギー表示を推進すること。

それでは、この3つの提言について順に説明します。

■提言 1

金曜日の来場者数を増やすための「学校との連携」です。

「湘南ひらつか七夕まつり」初日に行われる「千人パレード」は、コロナ禍前に比べて、参加者が大きく減少しています。また、初日の金曜日の来場者数は土

日の6割程度と少ない状況です。

小学校の社会科で配られる副読本「わたしたちの平塚」では、七夕まつりの特集ページが掲載されています。また、文部科学省の「小学校学習指導要領（生活編）」などを踏まえ、地域学習の題材として活用することも考えられます。地域の伝統行事に触れることは、小学校教育の方向性とも一致しています。

そこで私たちは、「授業や学校行事の中で七夕まつりへの参加準備を行う仕組み」を提案します。

例えば、

- ・総合学習の時間でパレードの踊りを練習する。
- ・ブース運営の事前学習を行う。
- ・午前のみ、午後のみ、学年単位など柔軟に金曜日の参加を促す。

といった取組です。

過去には、平塚中等教育学校が授業の一環として七夕ブースを出展した実績もあります。この取組によって、次の効果が期待できます。

金曜日の来場者数が増え、千人パレードの参加人数も増加すると考えられます。また、学生と地域住民との交流が深まり、七夕まつりの認知度向上と文化継承にもつながります。更には、授業として扱うことで、学習指導要領にも合致した「地域の文化を学び、支える体験」が実現します。

結果として、学生や家族がまちへ関わるきっかけとなり、まち全体の活性化が期待できます。学校行事や授業に取り込むことで、学生が「地域を学び、地域をつくる」経験につながります。

■提言2

市民参加型「デコレーションプログラム」の導入です。

この10年で中心街の七夕飾りの本数は減少しています。七夕飾りは、戦後の復興期に市民が手作りで始めた、平塚の文化です。そのような文化の継承を考えると、今求められていることは、市民一人ひとりが「見る側」だけではなく「作る側」として七夕まつりに関わることであり、と考えました。

そこで私たちは、「市民が飾りづくりに参加できる仕組み＝デコレーションプログラム」を提案します。

具体的には、

- ・学校の図工や美術、総合学習で飾り制作を行う。
- ・福祉施設のレクリエーションとして制作を行う。
- ・出来上がった飾りを中心街に掲出する。
- ・市民参加型のコンテスト部門を新設する。

といった取組です。こうした仕組みを整えることで、学生から高齢者まで多くの市民が「作る側」として参加することができます。このプログラムには、次の4つの効果が期待できます。

1つ目は、若者が地域の一員として活躍するきっかけになることです。自分の作った飾りがまちに掲げられる体験は、郷土愛や責任感を育てます。

2つ目は、学校で学んだ知識や技術が「社会で生きる」経験になることです。学びの実践は、学習意欲の向上にもつながります。

3つ目は、多世代交流が生まれ、福祉施設では生きがいや自己肯定感の向上につながることであります。

4つ目は、SNSでの拡散が進み、若者の発信によって平塚市の魅力が広がることです。観光庁の調査でも、写真・動画投稿は来訪意欲を高めるとされています。

これらの効果により、まち全体が七夕まつりを「他人ごとではなく自分ごと」として楽しむ文化が育まれると考えています。

■提言3

誰もが共通に楽しめる場、インクルーシブ・ツーリズムに向けた「全材料表示の推奨」です。

「湘南ひらつか七夕まつり」は、現在、日本3大七夕まつりの一つとして、高い集客力を誇っています。例えば、第72回では、110万人が来場しています。

様々な背景を持つ人が楽しめるようにインクルーシブな視点が重要です。

日本、アメリカ、オーストラリア、フィリピンの中高生や神奈川県を中心とした地域住民など、合計253名を対象としたアンケート調査の結果、まつりに来る人の多くが主な目的の一つとして「飲食を楽しむこと」を挙げていました。

しかし、「アレルギーや体質、宗教など様々な問題で、原材料を確認したくても確認しづらい」、「日本語表記しかないため、言語の壁により確認できない」という声もありました。

現状では、インクルーシブ・ツーリズムが実現できていない。皆で楽しめるまつりには、まだ至っていないという課題が存在します。

具体的な課題は以下の4点です。

1つ目は、アレルギーに関する影響です。

厚生労働省によると、日本の食物アレルギーを持つ方の割合は、およそ1～2%と言われています。少ないと思われるかもしれませんが、今年の来場者は115万人ですから、約2万人の方々が飲食の楽しみを制限されていた可能性があります。

2つ目が言語の影響です。

平塚市の人口調査によると、約6700人の外国人が住んでいます。そのため、日本語のみの表記が大きな課題となり得ます。しかし、使われている言語は多岐にわたるため、多言語表記だけでは対応できない可能性があります。

3つ目の課題は、健康や信仰による理由などで、多くの方々がまつりを楽しむ上で困難を抱えている可能性があるということです。

4つ目の課題としては、先ほど述べたアンケートより、食物アレルギーを持つ子どもの親から「口頭での原材料表示の確認は少し不安がある」、「子どもが自分から店員さんに原材料の確認をすることは少し難しい」という声もありました。

インクルーシブな環境をつくり出すことは、「湘南ひらつか七夕まつり」の社会的価値を大きく高めることだと私たちは考えます。

次に、これまでの具体的な活動と、その結果を2つ報告します。

1つ目の活動は、七夕学生委員会のアレルギー班を立ち上げたことです。

キッチンカー15台の協力を得て、七夕らしいデザインのコルクボードを用いて原材料を表示してみました。

来場者へのインタビューやキッチンカー出店者のアンケート結果から「サイズが大きい」、「設置場所がない」などの課題が見つかりました。

また、有益な情報として、「表示が義務化されている他のまつり用に既に作成したメニュー表がある」、「まつりの期間中に購入者から原材料表示について質問を受けた」というものもありました。

2つ目の活動は、高校の文化祭を利用した実験です。

今年の高校の文化祭において、屋台や食販ブース、文化祭専用のホームページにアレルギー表示を設けました。

ホームページでのアレルギー表示は、人が密集した文化祭ではアクセスの動作が遅くなり、画面上でアレルギー表示を確認しづらかったという課題や、スマホを持たない小学生はホームページを確認できなかったという課題がありました。

販売スペースに紙で原材料を表示したブースでは、多くの問い合わせにすぐに対応でき、混乱することは少なかったそうです。

また、外部からの来場者を対象としたアンケート結果では、回答者の95%に当たる92名が「見やすかった」と回答していました。

このため、「紙で見せる」ことが効果的だとわかりました。

そこで私たちは、以上の結果を踏まえ、屋台・キッチンカーでの原材料表示の標準化の推進を提案いたします。

具体的な策は3つです。

- 1 言語に依存しない「ピクトグラム」を採用すること
- 2 統一様式の提供
- 3 可能な範囲での多言語表記

この取組によって、「湘南ひらつか七夕まつり」が誰もが楽しめるまつりになり、インクルーシブ・ツーリズムの実現につながる効果が期待できます。

そして、誰もが参加しやすく共生できるまつりという新しい価値を生み出すことができると思います。

<まとめ>

3つの提言を改めてまとめます。

提言1つ目は、学校との連携で、金曜日の来場者数を増やす。

提言2つ目は、市民参加型の飾りづくりで、市民が交流をしながら「作る側」としての参加を促す。

提言3つ目は、アレルギー表示などで、誰もが安心して楽しめる七夕まつりを実現する。

これらの提案を通じて私たちが目指すのは、「みんなで参加し、みんなで作るまつり」へと進化させることです。私たち学生だからこそ気づけた視点で、未来の姿を提案させていただきました。

御来場の皆様と、より良い七夕まつりに向けて、本提言について一緒に考えていくことができればと思っています。

これで発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

提言に対する市長講評

「湘南ひらつか七夕まつり」を盛り上げるための思いを込めた提言を頂き、あ

りがとうございました。

提言に対して、率直な意見を述べさせていただきます。

まず、提言1つ目、学校との連携で、金曜日の来場者数を増やすことについてです。

小学校の社会科における副読本や学習指導要領に着目し、学校と連携した活性化策を提案された点は、学生ならではの視点で大変意義深いと感じました。

私は1981年に市の職員となり、その時から40年以上七夕まつりに携わってきました。

東日本大震災以降は、開催期間が3日間となりましたが、昔は5日間でした。その中で、若い世代を含む市民の皆様に参加を促す方法を考えてきました。

千人パレードは、今年は約700人の参加者でしたが、かつては言葉どおり千人以上の皆様に参加していただき、大きなイベントの一つでした。今後もより多くの皆様に参加していただき、七夕まつりを盛り上げるイベントとして継承していきたいと思えます。

学校との連携については、地域の文化として、七夕まつりを盛り上げていくことが必要ですので、実現が可能かどうか検討していきたいと思えます。

七夕実行委員会には平塚青年会議所の皆様にも参画いただいています。実行委員会の一員として、参加意識の醸成など、これからも一緒に取り組んでいただければと思えます。

続いて、提言2つ目、市民参加型の飾りづくりで、市民が交流をしながら「作る側」としての参加を促すことについてです。とても大切なことだと思います。

「湘南ひらつか七夕まつり」の歴史を振り返ると、仙台の七夕まつりを模範として始まりました。それから今年で73回目となります。

1945年、平塚市は大空襲を受けて中心街が焼け野原となりました。その中で、平塚市の商人・市民の皆様がまちを活気づけようと奮闘し、平塚市として復興計画を立て、戦後復興に奔走しました。

そのような経緯の一環で、まちを盛り上げるために始まったのが「湘南ひらつか七夕まつり」です。

七夕まつりは飾りがなければ成り立ちません。特に中心街の商店の皆様や市民の皆様が、華やかな竹飾りを作ってくれていました。それが飛躍的に発展し、5日間で約300万人の方々に御来場いただけるようになりました。

以前は、何百万円もかけて一つの飾りを作っていましたが、その後、コロナの影響などにより飾りが減少し、徐々にそのような時代ではなくなってきました。

飾りが中心の七夕まつりを盛り上げていくためには、飾りの本数をいかに確保していくかが大きな課題です。

平塚の七夕まつりは、飾りが豪華絢爛とされています。

今後も、様々な企業から協賛金を頂いて飾りを作ったり、市民飾りや幼稚園・保育園で制作した子ども飾り、各地域の公民館で制作した飾りを活用しながら盛り上げていきたいと思っています。

持続可能なまつりにしていくためには、このように多くの皆様に御協力いただく必要があるため、提言にある「デコレーションプログラム」の導入に取り組んでいただけるとありがたいです。

次に、提言3つ目、アレルギー表示などで、誰もが安心して楽しめる七夕まつりを実現することについてです。インクルーシブな対応は非常に大切なことです。

先日、国際交流フェスティバルという催しがあり、平塚市には約70か国、約6700人の外国籍市民がいらっしやると伺いました。

多くの皆様にまつりを楽しんでいただくためには、アレルギーや宗教上の配慮が必要です。

皆様の提言にあるピクトグラムはわかりやすく、学校の中で実際に試行された実行力はとても素晴らしいと感じました。

安心安全なまつりの開催という面からも、大変有意義な提案だと思います。

七夕まつりも73回を数え、大きく変わってきました。商店を中心に始まったまつりですが、当初は市が主導するまつりになっていました。

東日本大震災が発生した年は、地震の影響により、警備の問題や電力不足などの影響で、一度は中止が決まっていました。しかしながら、七夕まつりを絶やしてはいけないという強い思いがあり、様々な方から開催してほしいとの声を頂いていました。

こうした状況を踏まえ、関係者の方々に相談を重ねた結果、市民が主体のまつりになるよう実行委員会の体制を見直しました。

このような経緯がありましたので、本日のように皆様から提言を頂くことや、平塚青年会議所の皆様の御活躍には大変感謝しております。

これからも「湘南ひらつか七夕まつり」が若い皆様の発想や力で、楽しく魅力ある持続可能なまつりとなっていくことを大変楽しみにしています。

パネルディスカッション

【司会】

1つ目の質問は、「七夕まつりの今後の継続について、どのように継承させていくイメージを持っていらっしゃいますか。また七夕まつりには平塚市や地域にとってどんな意義や影響があると思いますか。」というものです。

【市長】

七夕まつりの継続についてですが、時代に合わせて持続可能な開催を目指すことと考えています。

豪華絢爛と称される飾りも、今後、様々な検討が必要です。多くの皆様の御協力で飾りを出していただくことができれば、ありがたく思います。

飾り以外にも、バーチャルリアリティやSNS、ICTなど様々な手段があります。市内外から多くの方々に御来場いただいています。時代に即した楽しみ方や、興味を持っていただける取組を続けることで、いつまでも楽しめて、「平塚はいいな」と思っただけの開催を目指して取り組んでまいります。

若い世代の方々にボランティアで取り組んでいただいた飾りつけや清掃、食品表示などは大変ありがたい活動です。

提言を含めて、若い人たちに関わっていただく方法を平塚青年会議所や平塚商工会議所青年部などの方々に一緒に考えていただきながら、取組を進めていくことが大切だと感じています。

【協賛企業（神奈川トヨタ自動車株式会社）】

「湘南ひらつか七夕まつり」は昔から、夢や希望がたくさんありました。

学生の頃には、開催期間の5日間、毎日行くことが本当に楽しみで、ステータスのように感じられ、また生きがかった時代でした。

そのような人の心に残る七夕まつりを次の世代へ継承してほしいと思います。

貴重な伝統と新しい発想を上手く組み合わせることで、更に魅力的になるのではないのでしょうか。

また、七夕まつりは平塚の誇りで、地域の結束を強める重要な場です。

観光や地元の商店街の繁栄、経済効果に加えて、多くの世代が顔を合わせることで日常的なつながりが生まれ、協力しやすい関係づくりが有事の際に必ず役立つことになると思います。

我々としても、環境に配慮しながら、平塚市や地域の皆様と協力していきたいと考えています。

【平塚青年会議所理事長】

「七夕まつりをどのように継承していくか」ですが、この場には平塚に在住・在勤・在学の方が多いと思います。

「平塚には何がありますか」と聞かれた時に、多くの方が七夕まつりとお答えになるのではないかと思います。

皆様が意識せずとも七夕まつりを大事に守り抜き、継承されてきているのではないかとつくづく思います。

平塚青年会議所としても、七夕まつりを絶やさぬよう、七夕飾りの飾り上げなど、見附台公園で色々な事業をさせていただいております。

その事業を継承していくには、次世代を育成していかなければなりません。

平塚青年会議所は、学生の皆様と一緒に盛り上げるため、色々と協働しています。

昨年の例会に、「都内に就職が決まっていたのですが、平塚が好きなので、市内の企業に就職をしました。」という方がいました。

一つの小さな例かもしれませんが、そのような人たちを増やすことが、七夕まつりを継承する一つの目的と考えています。

地域に与える意義や影響についてですが、年齢や性別に関係なく多くの方々が、このまつりに関わっています。

様々な人が関わっていると、有事の際に、横のつながりで色々なことを解決できる力になります。

まつり以外のところで様々な人たちが協働することで、このまちに新たな力と課題解決能力が加わり、地域をより良くする新しい力が生まれるのではないかと考えています。

【司会】

次に2つ目の質問は、七夕まつりを更に平塚市や地域全体で盛り上げていくために必要なこと、他のまつりの実績から取り入れたいことなどについてお考えがあれば教えてください。

【協賛企業（神奈川トヨタ自動車株式会社）】

例えば、七夕の短冊に書いた願いを一つ叶えるお手伝いをするといった参加型の仕組みは他のイベントでも非常に盛り上がるので、平塚市の七夕まつりでも取り入れたら、来場者が一緒に楽しめていいのではないかと思います。

他には、SDGsの観点から、飲食に使うスプーンやカップなどを廃材で作って、制作を福祉施設の方などをお願いすることで、環境が循環するような仕組みや仕事の創出ができます。地域貢献にもなりますし、地元企業とのつながりも増え非常に意義深いものになると思います。

【市長】

市や地域全体を挙げて行うイベントやまつりを実施することが難しくなっている状況があります。

他市の市長と話をしていても、これから先イベントを今までと同じように開催することが難しい時代になってきたと感じています。

だからといって、七夕まつりができませんとは言えないと思います。

基本的な部分は実行委員会が負担し、飾りは多くの皆様の力をお借りしながら、まつりを開催していく。このように工夫をしながら続けていくことで持続可能になっていくのだと思います。そのためには参加のハードルを下げることが必要で、方法を皆様と一緒に考えていければ幸いです。

飾りについては、地区公民館が立派な飾りを作っています。私も岡崎公民館の主事をしていた際、地域の皆様に御協力をいただいて参加型の飾りづくりを行い、地区別のコンクールで賞を頂いたこともありました。

そうした地区飾りを会場に持ち込み、市全体で盛り上げることも可能ではないかと思っています。

行政が施策を進める上で、先程も話題になっていたSDGsが大切な観点となっています。特に環境配慮やDX、GXです。

環境負荷の軽減やデジタル化など、皆様のアイデアを取り入れ、七夕まつりの魅力アップを図っていくことが大切だと思います。

【平塚青年会議所理事長】

「体験型」がポイントだと思いました。

今年、学生の皆様は経験されたと思いますが、自分が関わることで七夕まつりに愛着が深まったのではないかと思います。

平塚青年会議所は、平塚・大磯・二宮を活動地域としていますが、大磯で観光に特化した事業を開催しました。

近年、海外からの観光客が増えている中で、地域の魅力を活かして、外国人観光客や日本人観光客の皆様に訪れていただき、色々なものに消費を促していくかを考えてまいりました。

世の中の傾向としては、「物の消費」から「コトの消費」、つまり体験をする動きに移っているようです。特に欧米では、何かを買うという旅行よりも、体験する旅行が重視されているようです。

七夕まつりも同じだと思っていて、一緒に飾りを作ることで、「またそこで作りたい。あの飾りを見に行きたい。」というリピーター客を増やすことができるのではないかと考えています。

これが、落合市長が仰る「持続可能なまつり」につながるのではないのでしょうか。

こうすることで、地域経済にも効果があり、資金を活用することで、持続可能なまつりにつながっていくと考えます。

他のまつりの実績を取り入れることについて、3回ほど学生主体の委員会をやった中で意見を出していただきました。そこで「授業の一環として七夕まつりに行ってみよう。」というものがありました。他の地域では、「〇〇市民の日」のようなものがあります。例えばそのような日を創設して、七夕まつりに出掛けてもらう仕掛けを作ることで、全体の来場者数が増える可能性があるかもしれません。

【司会】

最後に3つ目の質問は、今後の七夕まつりにて、七夕学生委員会や青年会議所など、地域の若い人たちに対して期待することは何でしょうか。

【協賛企業（神奈川トヨタ自動車株式会社）】

七夕まつりをこれからも盛り上げていく上で、七夕学生委員会や平塚青年会議所など、地域の若い人たちの力が必ず必要です。昔ながらの文化や習わしを尊重することと、時代に合わせて少しずつ新しい形を工夫していくこと、その両方の観点を持つことが大切だと思います。

「湘南ひらつか七夕まつり」は復興や繁栄を目的に始まりましたが、当時の思いを引き継ぎながら、新しい考えも取り入れて、テーマに沿った飾りや催しを行うことで、参加する企業も自社の考えや理念と共通点を見つけやすくなり、地域全体で思いを紡ぐことができると思います。

是非、このような思いを胸に持ち続けていただけたらと思います。

【市長】

七夕学生委員会の皆様には、このような思いを持ちながら七夕まつりを見つめ、提言を頂けることに心から感謝し、重ねてお礼を申し上げたいと思います。

若い世代ならではの柔軟な発想で新しいアイデアを今後も考えていただき、魅力を更に高めていただきたいと思います。

今、SNSでの「映え」など、流行というのは若い人たちの感性や行動から生まれることが多いものです。七夕まつりについても同様に発信してもらい、その魅力を同世代の人たちに広げてほしいと思います。

平塚青年会議所の皆様には見附台公園で様々な活動に取り組み、柔軟な発想で事業を展開していただきました。皆様は、地域経済の発展を支える平塚市の産業における魅力化の中心であり、象徴のような団体です。若い力での行動力・実行力がありますので、共に地域を動かしていただけると心強く思います。七夕まつりに関しても学生の方だけではなく、若い発想で一緒に動かしていただけるよう牽引役として関わっていただきたいと思います。

【司会】

学生の立場で聞いていて、改めて七夕まつりがより良くなるために今後も頑張っていこうと思える時間になりました。

それではこれもちましてパネルディスカッションを終了いたします。

以上